



# 学びの庭

甲府市立甲運小学校  
学校だより第11号  
平成30年1月26日  
(文責：勝村 正樹)



## 心新たにがんばります



平成30年の新しい年を迎えてから、1か月が経過しようとしています。いよいよ学校でもまとめの時期となりました。日本列島を大寒波が覆う中、子どもたちは元気に登校しています。これからまだ当分は寒い日が続きますが、子どもたちとともに頑張っていきたいと思えます。保護者の皆様には、これからもご理解とご協力よろしくお願いいたします。

### 厳かな雅楽で3学期スタート

1月10日、6年生の音楽の授業に「穴切大神社雅楽クラブ」の方々をお招きしました。子どもたちは、「初めてみる楽器ばかりだった」「龍笛を吹いてみたが音が出なかった」「伝統的な曲を世界に広げてもらいたい」など、日本古来の音楽に興味津々でした。



### 熱い演説が繰り広げられました

1月25日、児童会役員選挙の立会演説会が行われました。候補者や責任者の話から来年度の児童会活動に寄せる思いがひしひしと伝わってきました。甲運小学校がさらによい学校に前進していくものと確信しています。



### 子どものやる気を引き出すために ②

#### ○共同体感覚

子どもにやる気を出させるにしろ、頑張らせるにしろ、まず第一に「自己肯定感」を育てるのが大切です。自己肯定感とは、よくうぬぼれと混同されがちですが、そうではありません。周り比べて自分が一番だと思えることがうぬぼれです。しかし、たとえうまくいなくても、自分にはかけがえのない存在だという感覚が自己肯定感です。他の人がどうであれ、自分はこんなすてきなところがあるんだということを見つけて、それを育ててあげることが大切です。

はじめに重要なのが、人との比較をしないこと。自分の子ども自身の半年前や1年前と現在を比べるのです。そこを大人が喜ぶことができれば、「自分はこれだけできるようになった」と思え、自信や自己肯定感につながります。

次に、他人に対しても、信頼できる、尊敬できるということも経験させないといけません。誰かと一緒になって何かをやり遂げたら、「みんなと力を合わせてできたね。すてきだね。」と褒めて、人と力を合わせることに素晴らしいことだと教えてあげます。

さらに、「人の役に立つ」ことを教えなくて

はいけないと思います。人の役に立つということは、とても自信になります。人から期待された、その期待に応えることができたということは、生きていく意義にもつながるのです。ですから、子どもがお手伝いをしてくれたときには、「手伝ってくれて助かった」という気持ちをきちんと伝えてあげます。

この三つの「共同体感覚」を中学校に上がる前後くらいまでに子どもの心にしっかり植え付けておきたいものです。

(子育てボランティア代表 星一郎氏の話から)

### ご存じでしたか？ 色(いろ)の語彙(ごい)

私が小学生時代に使っていた「はだ色」という呼び名は、最近聞かれなくなりました。現在では、「パールオレンジ」「うすだいたい」などの言葉が代用されています。



日本語の色彩語彙には次のようなものがあります。(その一部のみ紹介)

- ①基本的な色彩語「赤・黒・青・白」(赤い・黒い・青い・白という形で使われる)
- ②色彩名詞「桃色・灰色・水色・金色・銀色など」(~色という形で用いられる)

心がほっとスマイル大特集 みんな大切な仲間です。

- ぽつんと一人1年生が石鹸で手を泡立てて懸命に洗っています。「給食ですか。」と私が尋ねると、「いいえ。」少しはすかしそうな返事がありました。図工が終わったので手をよく洗っていたようです。



- 「失礼します。」あどけない1年生が数人、校長室を訪ねてきました。私が「はい。」という間もなく、地区の文化協会会長さんと話しているのを見ると、「お客さんですね。また来ます。」と、慌ててドアを閉めて行ってしまいました。それからずっと待っていますが、まだ来ません。1年生はどんな用事で来たのか気になります。
- 2年生の教室の前を通りかかると決まって背筋をぴんとし、手を振ったり会釈をしたりしてくれる子がいます。授業中にも関わらず、つい私も手を振ってしまいました。
- 2年生が職員室に鍵を借りにくることは滅多にないのです。先日少し緊張した面持ちで2年生が体育館の鍵を借りにきました。後で「特別教室カギの使用簿」を見ると、丁寧な文字で借りた日付や氏名が書いてありました。
- 誰もいないのかと思って3年生の教室をのぞくと、みんな静かに給食を食べていました。担任は児童会役員選挙の準備で大忙しです。「校長先生は、給食を食べたのですか。」「はい。」と私が答えながら、「最近、給食で野菜がたくさん残ると聞いたので。」と続けると、「それを見て回っているのですね。」という声が聞こえました。ある子どもが私の方に振り向きながら、「今、野菜が高いからなあ。」と言った言葉が印象的でした。



- 「失礼します。」はっきりとした声であいさつをして校長室に入ってきた3年生がいます。「2冊目の自学ノートが終わりました。」ノートの中を見ると、紙いっぱい学習したことが書いてありました。その子がこれまで体力づくりに励んでいることを知っていたので、「今も体力づくりを続けていますか。」と聞くと、「はい、毎朝縄跳びを続けています。」という言葉が返ってきました

た。毎朝縄跳びのいろいろな技に挑戦している姿が目には浮かびました。

- 児童会役員立候補者と責任者が各教室を給食中に選挙の取組で回っていた時のことです。ある責任者が、「〇〇君の名前の◎は」「ロマンチックの◎です。」と言うと、真顔で聞いていた4年生から、恥ずかしそうな笑い声が起こりました。その雰囲気がとても子どもらしくて、思わず一緒に笑顔になりました。
- お正月に、4年生から私の元に年賀状が届きました。「一緒にお話をしているときがとても楽しいです」と心のこもった文字で書かれてありました。私は嬉しくなって、何度も読み返しました。
- 私が他の教員と立ち話をしていると、そのそばを通り過ぎた5年生がいます。私たちに気がつくとすぐに戻ってきてぺこんとお辞儀をして、また教室に入っていました。



なんと礼儀正しいのでしょうか。2年前の連合音楽会の休み時間に、私のところに来て「校長先生、ハイタッチ」と近寄って来てくれた、まさにその子でした。

- 先日降った雪が解けず、玄関前が凍っています。滑ると危ないので、カラーコーンで囲いをしました。一緒に登校してきた低学年の子が囲いの中に入ってしまった。すると、優しく腕を引っ張り外に出そうとする5年生の姿がありました。
- 清掃時間になると時間きっちり掃除を始める6年生の姿があります。掃きはもちろんのこと、拭き掃除がすばらしいのです。玄関や職員室などぴかぴかになるまで拭いてくれます。「学校の歴史は6年生がつくる」を掃除でも実践しています。



- 後ろについて下の学年の様子を見守りながら登校して来る6年生がいます。その6年生の「おはようございます」のあいさつが実に清々しいのです。正門を入っていく姿を見送りながら、「今日も旗振り指導に立ってよかった」とつくづく思います。

